

I

[1] (1) 三角形 BCD に余弦定理を用いて、

$$\begin{aligned} \cos \angle CBD &= \frac{DB^2 + BC^2 - CD^2}{2DB \cdot BC} \\ &= \frac{8^2 + 5^2 - 7^2}{2 \cdot 8 \cdot 5} \\ &= \frac{1}{2}. \end{aligned}$$

よって、

$$\angle CBD = \overset{\text{ア}}{\boxed{60^\circ}}.$$

また、

$$\begin{aligned} \triangle BCD &= \frac{1}{2} DB \cdot BC \sin \angle CBD \\ &= \frac{1}{2} \cdot 8 \cdot 5 \sin 60^\circ \\ &= \overset{\text{イ}}{\boxed{10\sqrt{3}}}. \end{aligned}$$

(2) 三平方の定理より、

$$BH^2 = AB^2 - AH^2,$$

$$CH^2 = AC^2 - AH^2,$$

$$DH^2 = AD^2 - AH^2$$

であることと、 $AB = AC = AD$ であることから

$$BH = CH = DH$$

を得る。したがって、H は三角形 BCD の外心であり、BH は外接円の半径である。

よって、三角形 BCD に正弦定理を用いて、

$$2BH = \frac{CD}{\sin \angle CBD}.$$

$$BH = \frac{7}{2 \sin 60^\circ} = \overset{\text{ウ}}{\boxed{\frac{7\sqrt{3}}{3}}}.$$

(3) 三平方の定理より、

$$\begin{aligned} AH &= \sqrt{AB^2 - BH^2} \\ &= \sqrt{7^2 - \left(\frac{7\sqrt{3}}{3}\right)^2} \\ &= \overset{\text{エ}}{\boxed{\frac{7\sqrt{6}}{3}}}. \end{aligned}$$

よって、四面体 ABCD の体積を V とすると、

$$\begin{aligned} V &= \frac{1}{3} \triangle BCD \cdot AH \\ &= \frac{1}{3} \cdot 10\sqrt{3} \cdot \frac{7\sqrt{6}}{3} \\ &= \overset{\text{オ}}{\boxed{\frac{70\sqrt{2}}{3}}}. \end{aligned}$$

[2] (1) a_n は n を 3 進法

$$\begin{array}{r} 3 \overline{)25} \quad 3 \overline{)50} \\ \underline{3 \overline{)8 \dots 1}} \quad 3 \overline{)16 \dots 2} \\ \quad \quad \quad \underline{3 \overline{)2 \dots 2}} \quad 3 \overline{)5 \dots 1} \\ \quad \quad \quad \quad \quad \quad \underline{0 \dots 2} \quad 3 \overline{)1 \dots 2} \\ \quad \quad \quad \quad \quad \quad \quad \quad \quad \quad \quad \underline{0 \dots 1} \end{array}$$

$$a_{25} = \overset{\text{カ}}{\boxed{221}}_{(3)},$$

$$a_{50} = \overset{\text{キ}}{\boxed{1212}}_{(3)}.$$

(2) 初めて 6 桁になるのは

$$100000_{(3)} = 3^5 = 243$$

より、第 $\overset{\text{ク}}{\boxed{243}}$ 項である。

(3) a_n が k 桁となる条件は、整数 n が

$$3^{k-1} \leq n < 3^k$$

を満たすことであるから、 k 桁である項は

$$3^k - 3^{k-1} = \overset{\text{ケ}}{\boxed{2 \cdot 3^{k-1}}} \text{ 個}$$

あり、その最後の項は $\overset{\text{コ}}{\boxed{3^k - 1}}$ である。

よって、 k 桁の項の総和を S とすると、 S は

$$\text{初項 } 3^{k-1}, \text{ 末項 } 3^k - 1, \text{ 項数 } 2 \cdot 3^{k-1}$$

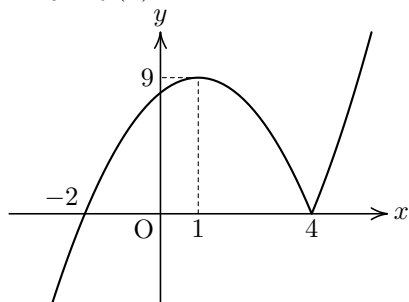
の等差数列の和であるから、

$$\begin{aligned} S &= \frac{2 \cdot 3^{k-1}}{2} \{3^{k-1} + (3^k - 1)\} \\ &= \overset{\text{サ}}{\boxed{3^{k-1}(4 \cdot 3^{k-1} - 1)}}. \end{aligned}$$

[3] (1) $F(x) = (x+2)(x-4) = (x-1)^2 - 9$ に対し、

$$f(x) = \begin{cases} -F(x) & (x < 4 \text{ のとき}), \\ F(x) & (x \geq 4 \text{ のとき}). \end{cases}$$

よって、 $y = f(x)$ のグラフは次のようになる。



したがって、最も適当な選択肢は $\boxed{(c)}$ である。

(2) 2 次関数のグラフの対称性より、 $t < 4$ で

$f(t-1) = f(t)$ となるのは

$$\frac{(t-1)+t}{2} = 1 \quad \text{すなわち} \quad t = \frac{3}{2}$$

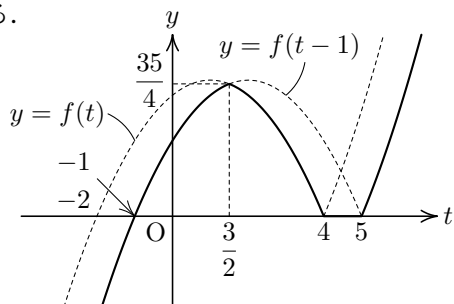
のときであり、 $x = 4$ が定義域に含まれるのは

$$t-1 \leq 4 \leq t \quad \text{すなわち} \quad 4 \leq t \leq 5$$

のときであるから、

$$g(t) = \begin{cases} f\left(\overline{t-1}\right) & \left(t < \overline{\frac{3}{2}} \text{ のとき}\right), \\ f\left(\frac{1}{2}\right) = f\left(\frac{3}{2}\right) & \left(t = \frac{3}{2} \text{ のとき}\right), \\ f\left(\overline{t}\right) & \left(\frac{3}{2} < t \leq 4 \text{ のとき}\right), \\ f(4) & \left(4 < t \leq \overline{5} \text{ のとき}\right), \\ f\left(\overline{t-1}\right) & (5 < t \text{ のとき}). \end{cases}$$

(3) $y = f(t-1)$ のグラフは $y = f(t)$ のグラフを t 軸方向に $+1$ だけ平行移動したものであることに注意して、 $y = g(t)$ のグラフは次のようになる。



したがって、最も適当な選択肢は $\boxed{(c)}$ である。

II

$a + b + c = 100$ の両辺を 100 で割って,
 $x + y + z = 1$ すなわち $z = 1 - (x + y)$①
 $a \geq 0, b \geq 0, c \geq 0$ より, (① も考慮して)
 $x \geq 0, y \geq 0, x + y \leq 1$②

新商品 100 g 中の栄養成分 L, M, N の含有量を順に W_L [g], W_M [g], W_N [mg] とし, 新商品 100 g に対する仕入れ価格を P とすると,

$$\begin{aligned} W_L &= a \cdot \frac{3}{100} + b \cdot \frac{1}{100} + c \cdot \frac{4}{100} \\ &= 3x + y + 4z \\ &= 3x + y + 4\{1 - (x + y)\} \quad (\text{① より}) \\ &= 4 - (x + 3y). \end{aligned}$$

同様に,

$$\begin{aligned} W_M &= 4x + 8y + 10z \\ &= 10 - 2(3x + y). \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} W_N &= 2.5x + 0.6y + 1.9z \\ &= 1.9 + 0.1(6x - 13y). \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} P &= rx + 100y + 120z \\ &= 120 - \{(120 - r)x + 20y\}. \end{aligned}$$

[1] $x : y : z = a : b : c = 1 : 2 : 3$ のとき,
 $y = 2x, z = 3x$
 であり, これと ① より, $x = \frac{1}{6}, y = \frac{1}{3}$.

よって,
 $W_L = 4 - \left(\frac{1}{6} + 3 \cdot \frac{1}{3}\right) = \frac{17}{6}$.

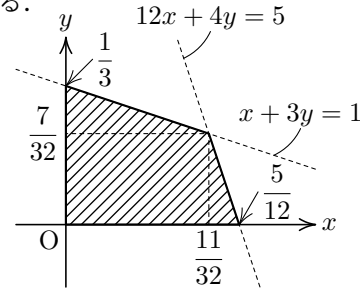
[2] $y = \frac{1}{8}$ かつ $W_N \geq 2$ となる条件は,
 $1.9 + 0.1\left(6x - 13 \cdot \frac{1}{8}\right) \geq 2$.
 $6x - \frac{13}{8} \geq 1$ すなわち $x \geq \frac{7}{16}$.
 これと ② より, x のとり得る値の範囲は
 $\frac{7}{16} \leq x \leq \frac{7}{8}$.

[3] ①, ② に加えて, $W_L \geq 3$ かつ $W_M \geq s$ となる条件は,
 $4 - (x + 3y) \geq 3$ かつ $10 - 2(3x + y) \geq s$.
 $x + 3y \leq 1$ かつ $2(3x + y) \leq 10 - s$③
 これと ② を満たす点 (x, y) の存在領域を D とする.

(1) $s = 7.5$ のとき, ③ は

$$x + 3y \leq 1 \quad \text{かつ} \quad 12x + 4y \leq 5$$

となるから, D は次図斜線部 (境界を含む) のようになる.



一方, $r = 80$ のとき $P = 120 - 20(2x + y)$ であるから, P が最小になるのは $2x + y$ が最大するときである.

$2x + y = k$ とおくと, これは xy 平面上の傾き -2 , y 切片 k の直線を表す.

これが D と共有点を持つような k の最大値は,
 $(x, y) = \left(\frac{11}{32}, \frac{7}{32}\right)$ のときの $k = \frac{29}{32}$.

よって,

$$x = \frac{11}{32}, \quad y = \frac{7}{32}, \quad z = 1 - (x + y) = \frac{7}{16}$$

のとき, P は最小値 $120 - 20k = \frac{815}{8}$ をとる.

(2) $s = 7.5$ より D は (1) と同じであるから, (1) と同じ (x, y) でのみ P が最小となる条件は,
 $(120 - r)x + 20y = k$ を xy 平面上の直線と見たときの傾き $-\frac{120 - r}{20}$ が

$$-3 < -\frac{120 - r}{20} < -\frac{1}{3}$$

を満たすことである. よって,

$$60 < r < \frac{340}{3}$$

(3) P が最小となるときの x, y, z が正であることが条件であり, これは ③ の境界線の交点 $\left(\frac{28 - 3s}{16}, \frac{s - 4}{16}\right)$ が $x > 0, y > 0, x + y < 1$ の範囲にあることと同値である. よって,
 $\frac{28 - 3s}{16} > 0$ かつ $\frac{s - 4}{16} > 0$ かつ $\frac{24 - 2s}{16} < 1$.

$$4 < s < \frac{28}{3}$$

III

4 枚のカードから 2 枚選ぶ方法は ${}_4C_2 = 6$ 通りあり、これらは同様に確からしい。

- [1] 白 2 枚, 黒 2 枚の状態から,
- 白 1 枚と黒 1 枚を選んで (${}_2C_1 \cdot {}_2C_1 = 4$ 通り) 裏返すと, 再び白 2 枚, 黒 2 枚の状態となる。
 - 黒 2 枚を選んで (${}_2C_2 = 1$ 通り) 裏返すと, すべて白の状態となる。
 - 白 2 枚を選んで (${}_2C_2 = 1$ 通り) 裏返すと, すべて黒の状態となる。

よって,

$$a_1 = \frac{4}{6} = \frac{2}{3}, \quad b_1 = c_1 = \frac{1}{6}. \quad \dots(\text{答})$$

- [2] すべて白の状態からは, どの 2 枚を選んで裏返しても必ず白 2 枚, 黒 2 枚の状態となる。

同じく, すべて黒の状態からは, どの 2 枚を選んで裏返しても必ず白 2 枚, 黒 2 枚の状態となる。

このことと (1) から,

$$\begin{cases} a_{n+1} = \frac{2}{3}a_n + b_n + c_n, & \dots(*) \\ b_{n+1} = \frac{1}{6}a_n, \\ c_{n+1} = \frac{1}{6}a_n. \end{cases}$$

よって,

$$a_2 = \frac{2}{3}a_1 + b_1 + c_1 = \frac{7}{9}, \quad \dots(\text{答})$$

$$b_2 = c_2 = \frac{1}{6}a_1 = \frac{1}{9}. \quad \dots(\text{答})$$

- [3] 全事象の確率

$$a_n + b_n + c_n = 1$$

であるから, (*) より

$$a_{n+1} = \frac{2}{3}a_n + (1 - a_n).$$

$$a_{n+1} = -\frac{1}{3}a_n + 1. \quad \dots(\text{答})$$

- [4] [3] で得た漸化式を変形すると,

$$a_{n+1} - \frac{3}{4} = -\frac{1}{3}\left(a_n - \frac{3}{4}\right).$$

よって, 数列 $\left\{a_n - \frac{3}{4}\right\}$ は

$$\text{初項 } a_1 - \frac{3}{4} = -\frac{1}{12}, \quad \text{公比 } -\frac{1}{3}$$

の等比数列となるから,

$$a_n - \frac{3}{4} = -\frac{1}{12}\left(-\frac{1}{3}\right)^{n-1} = \frac{1}{4}\left(-\frac{1}{3}\right)^n.$$

$$a_n = \frac{1}{4}\left\{3 + \left(-\frac{1}{3}\right)^n\right\}. \quad \dots(\text{答})$$